

数学教育史（第四回）草稿

著者	小倉 金之助
発行年	1950
URL	http://id.nii.ac.jp/1275/00002663/

()
昭和二十五年九月十六日

日本
数学教育史
(第四回)

たしいものを、そのまま入学試験に用いてい
子。それから代数などの問題を見ましても、

形式主義の最もはなはたしい問題ばかりであ
ります。

した。
先ず第一にマク・マホン Mac Mahon (数学者)
をのチスカリミロジと第一の取柄し

が、ペリーの反對者として立ち、

た人が、歴長の数学、物理学の方の歴長のマ

クマホーンでありまう。彼はこう、いう史肉を

派せました。

101
へり教授は、あらゆる子供といふものが、み

年の間ほとんど何らの改造も加えられずに
いたのがあります。たとえばここに一八六四

年の入学試験の問題を見ますと、初等幾何の

問題なんかでは、エーケリットに幾何の問題が

おつとあるのさ。しかもそこには二人をこ

の席上で、その委員会報告があつたのであらう。それは又
各委員会で研究の結果、その報告を出すとして
協的な形式的なものでありますが、といふく、次のことだけは確立
になつてゐる。あります。報告の第一節を
するところから、おそれた。——

と、
このことか、言ひなしてあります。

論証

幾何学を教える前に、
その前にある

概念を採用する。

実用目的

幾何学を教える前に、
幾何学を教える前に、

といふ新法および新しい研究法に對し
て思へられたのである。

パリのきう實用數學の本質がここにあつたの
だと思ひます。だからパリが意圖したところ

のものは、これまでのいわばスコラティック

を哲學的・數學教育、すなわち教師はなん書

物に書かれておつたのを上つた既成の數學を

讀んで、生徒はそれを暗記して、それでやつ

と^推理を認識するといふよすな、そつといふ死

ん~~な~~た學習方法に對立しまして、自然や社會

現象の中より、実践、観察あるいは実験とか

実測

~~推~~

理によつて、

数学的に法則を見出す

うとするところに、

彼のいふやうな実用数学の

ほんとうの意味があるのかと思ひます。それ

ですらう、先ほど申しましたように、
~~それ~~

へのいわゆる

実験に伴え、常識的説明がすなわち法則で

なりけむならない。

断じて抽象的幾何学を

教えたことなむれ。

と
いう言葉は、非常に誤解されやすい表現で

はあります、
あのような意味に解釈せうと
思っています。

ペリは非常に子供の直感とか、
おたはに理

解の原則といふものを重視した、
のである

す。
彼はこう申してあります。